

福島沖地震と冷却一時途絶問題についての「見解」

本日の福島沖地震発生直後、停止中の福島第二原発で、使用済み核燃料の冷却が一時途絶し、その後回復したと東電は発表しました。現時点では原因など詳細は不明ですが、過酷事故につながりかねない、深刻・重大な問題です。震度5弱程度の揺れによるこのような事態の発生は、原発がいかに地震に脆いかということを実に物語っています。

日本の大地も周辺海域も地震や火山の活動が活発化しており、日本から原発をなくす事を急がねばなりません。

いま、伊方原発では、MOX燃料を入れた危険な運転が強行されており、使用済み燃料ピットは、燃料間隔を切り詰めた「改造」がなされた危険なものです。

今回の地震はマグニチュード7.4でしたが、南海トラフによる地震はマグニチュード9クラス、中央構造線活断層帯による地震はマグニチュード8.0程度またはそれ以上とされています。マグニチュードが1増えるとエネルギーは約32倍です。伊方原発はその巨大地震から逃れることができません。あまりにも過小に評価された基準地震動による対策では伊方原発の破壊はまぬがれません。

さらに、伊予原発の位置する四国北西部及び伊予灘の地下には巨大なひずみが蓄積しているとの警告や、伊方原発のおよそ600m沖を活断層が通っている疑いを指摘する研究報告も出ています。伊方原発は、危険こそが増大しています。

本日の福島沖地震と、使用済み核燃料の冷却一時途絶の事態を真剣に受けとめ、政府、四国電力、愛媛県ならびに伊方町は、ただちに伊方原発を停止し、廃炉に向かわせるべきです。

2016年11月22日

伊方原発をとめる会

連絡先 090-4500-3320
(事務局次長 和田)